

令和8年度第1回湘南ヘルスイノベーションパークの環境保全に関する連絡会議事録

- 1 開催日 令和8年(2026年)7月5日(日)午前10時から午前11時20分まで
- 2 場所 湘南ヘルスイノベーションパーク(以下、湘南アイパーク)会議室
- 3 出席者
町内会・自治会：植木町内会(1名)、鎌倉ロジュマン管理組合(1名)、
鎌倉岡本ガーデンホームズ管理組合(1名)、四季の杜自治会
(1名)、ラシェール鎌倉岡本ハイライズ自治会(1名)、鎌倉グ
ランマークス管理組合(1名)
湘南アイパーク：株式会社KJR マネジメント(1名)、アイパークインスティチュ
ート株式会社(7名)
鎌倉市：環境保全課(3名)
- 4 概要
開会后、鎌倉市環境保全課課長からのあいさつ及び連絡会設立の経緯説明があ
り、出席者の自己紹介、次第に沿って説明及び質疑が行われた。

議題1 鎌倉市報告

(1) 環境測定結果の報告

協定に基づいて、湘南アイパークから排水等の環境測定結果の送付を受けてお
り、毎月確認した。

(2) タイワンリスの捕獲について

環境保全課動物保護管理担当では、特定外来生物に指定されているタイワンリ
スの捕獲について相談を受けている。タイワンリスは三浦半島に生息しており、
例年だと約1,000頭捕獲していたが、昨年4,500頭を超えた。近隣の方がタイワ
ンリスでお困りだという話があったら、環境保全課動物保護管理担当を紹介して
ほしい。

議題2 湘南ヘルスイノベーションパーク報告

「環境保全協定に基づく連絡会資料」のとおり。

特記事項

- ・排水について、銅及びその化合物の管理目標0.5 mg/Lの超過があった。ただし、法
定基準は基準値以下であった。詳細は連絡会資料 p.7 のとおり。
- ・テナント企業において、2025年5月30日に毒物「三塩化ほう素」使用量の記録不
備が発覚し、その後、藤沢警察・同保健所による立ち入り検査が実施された。事件
性なし。湘南アイパークとしては施設管理者の立場から安全管理体制の向上に努め
ていく。詳細は連絡会資料 p.15 のとおり。
- ・動物実験に関して、国際的な第三者評価機関である AAALAC インターナショナルの完
全認証を2012年に取得し、以来継続している。2025年に定期調査を受け、認証更

新となった。

- ・湘南アイパークの入居者の数え方を 2025 年度から変更したため、入居者数としては約 1000 名増加となっている（2024 年度：2500 名→2025 年度：3500 名）。これまでは常駐人数を計上していたが、コロナ以降、勤務体制に変化がみられ常駐の定義が困難になったため、個人の入館証数を計上することにしたため。
- ・湘南アイパークにおいて地域に向けた 2 大イベントの一つ「新湘南ウェルビーイングフェスタ」について、今年は、「自分の健康医療データを自分の健康作りに役立てる（仮）」というテーマで 11 月 21 日に開催予定。それに向けて住民の方との対話を 2 月から繰り返し開催しながら、ワークショップを開催するなどして準備を進めている。次回は 8 月 20 日に開催予定なので、案内させていただきたい。

議題 3 質疑応答

（1）環境測定結果報告について

ア （植木）今回、テナントの毒物管理不整合について報告があったが、これとは別に一昨年（2024 年）に動物の数が合わないという事件があり、タイムリーに報告してもらいたいと伝えた。今回の件についても連絡会前に起こり、連絡会前に企業のホームページで発表していたにも関わらず、昨年の連絡会で報告がなかった。連絡会としての機能が備わっていない。信頼に関わるので今後修正してほしい。市にも、どうして住民への情報提供として昨年の連絡会で報告しなかったのか聞きたい。

→（鎌倉市）湘南アイパークから市に、連絡会前に報告があった。連絡会で報告してもらえないか検討してもらった。市も、できればすぐに報告してもらった方が良いと思うというのが本来の立場であるが、色々調査中ということもあり、はっきりしない情報を出すのはどうかという考えも理解できたため、最終的には湘南アイパークの判断に任せたところである。

→（湘南アイパーク）毒物の性質等から考えて恐らく不整合であると考えた。結論が出る前に不安をあおることのないようにすべきと判断し、結論が出てから地域渉外担当から報告することとした。もし、事案が発生したときのために、社内の方針を改めて考えたい。

→（植木）この連絡会では公表されてはいいが。タイムリーに伝えることにより信頼関係を継続できると考える。

→（湘南アイパーク）「報告会でタイムリーに報告していない」という御指摘を受けたが、本連絡会の内容は議事録として公開される前提となっており、調査が確定していないことに対して公開されていくことについて意識せざるを得ない。調査が確定していない状況でいざに不安をあおるべきではないという思いと、早期に報告しなければという気持ちがある。

→（植木）調査中であっても情報提供する。途中経過でも「危険性は低いです。」などの湘南アイパークのコメントをつけてもらってよい。

- （湘南アイパーク）事実上不整合。あの時点では、紛失か不整合かが分からなかった。今後、できるだけ早く報告する方向で考えたい。
- （鎌倉市）植木町内会の話を受け止めて、今後湘南アイパークと連絡を取っていききたい。

イ （ラシェール）毒物の管理に不具合があった企業に対し、その後どのように横展開したのか。また、行政の対応状況を教えてほしい。

- （湘南アイパーク）いろいろ調査し記録の不備があった帳簿や鍵の確認をし、改善を求めた。現在でも湘南アイパークが個別に現場調査を重ねており、管理状況は改善されたと捉えている。各入居企業への横展開に関しては、どの企業でもほぼ化合物の取扱いがあるので、湘南アイパークが作成したガイドラインを最初に案内をしている。それを受けても今回の事案が起こったため、改めて毒物の使用状況報告を年1回実施する仕組みを導入した。

行政の方からは、藤沢市の保健所・警察署が稼働の状況を確認され、最終的に事業者より藤沢市保健所に報告書を提出、これを受理して終了した。

各テナントに対し、現状では藤沢保健所による定期的な立入検査は行われていない。このため、湘南アイパークがいかに調査をするかが重要となってくる。

- （ロジュマン）毒物の管理状況について、連絡会の報告事案にしてほしい。
- （湘南アイパーク）来年以降の資料として、どのように記載するか検討する。

ウ （ラシェール）管理目標が厳しく設定されている。決められた算出根拠を教えてください。管理目標を超過しても直ちに環境に影響があるとは思えない。

- （湘南アイパーク）排水については、ほとんどが法令の1/2の厳しい基準で管理している。排ガス、騒音振動についても、法令の基準を超えないように当時決定した。管理目標を超えた場合、市へ報告することとしている。

（2）湘南アイパークの近況

ア （植木）問題が生じた際の責任の所在がテナントにあると説明されているが、人が関われば関わるほどリスクが増え、大きな事案が起こったときに責任の所在が曖昧になる。構造的に何か設けることを検討してほしい。

- （湘南アイパーク）植木町内会から個別に、企業の代表者が湘南アイパークに報告すること以外に各企業の研究員が個別のコンプライアンス上の問題について湘南アイパークが窓口としていく制度はないかと提案いただいていた。海外の状況も調べて仕組みを検討したが、法令上では各企業に責任があるため、湘南アイパークが責任を受けることによって責任の所在が分かりにくくなると判断し、仕組みを導入するのは難しいと判断し、植木町内会に報

告した。

湘南アイパークは、その責任の管理として、昨年毒物管理を怠った企業について定期的なパトロールを実施していること、またすべての企業に年次の毒物使用状況報告を行っていただくこととした。

イ （植木）2011年、遺伝子組換え実験に従事する研究者が水道の元栓を閉め忘れて排水を敷地内に流出させた事案において、当時誰が最後に入って閉め忘れて退出したかが分からない、という報告を受けた。現在技術が進み、パスキー以上に出入りが分かる技術があるが、湘南アイパークの出入りに関するセキュリティに導入されているか。また、今後どのようなようになっていくのかも含め教えてほしい。

→（湘南アイパーク）セキュリティの現状としては、ICカードで履歴の管理をしている。監視カメラの情報をあわせて、誰が最後にそのエリアを退出したかは確認すれば分かる状態となっている。

今後の対策では、事象の責任を持つ人間、またその当事者がどのような対応をしたかというところは特定する方針であり、現在それができる近い体制は整えている。

→（植木）セキュリティや監視カメラはあるが、2024年度に起こった動物の匹数不整合など、カメラに映し出されない事案もあるかと思われる。監視されているようで、実はそうではないと思う。常に何か改善できることはないだろうか考えることは必要だ。

→（湘南アイパーク）そのような部分についても考えており、継続して検討、対応していきたい。

ウ （ラシェール）防災の観点でどのようなことを実施しているのか。

→（湘南アイパーク）不審者対応については24時間常駐している人間によって管理している。

防災訓練は年2回、全従業員が実施している。それ以外にも消火器訓練、特殊なエリアから逃げる訓練があり、平均すると約2か月ごとに何らかの訓練を実施している。

以 上